

# AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2006.12) 7巻1号:23～34.

老年看護学における看護学生の高齢者観の育成—教育プログラムへの  
提言—

高岡哲子、服部ゆかり

## 投稿論文

# 老年看護学における看護学生の高齢者観の育成 — 教育プログラムへの提言 —

高岡 哲子\* 服部 ユカリ\*

## 【要 旨】

本研究の目的は、看護学生がもった通所施設見学後の高齢者観を明らかにし、老年看護学教育プログラムを構築するための基礎資料を得ることである。

研究対象は、4年制大学看護学科の3年生で老年看護学と実践看護技術学（老年）を受講した62名のうち、承諾が得られた61名であった。データの分析は Berelson, B. (1957) の内容分析の方法に基づいて行い、18の【カテゴリー】と73の【サブカテゴリー】が抽出された。

この結果と前回の筆者ら<sup>5)</sup>の研究結果をあわせて考えると、本対象は高齢者疑似体験や通所施設見学において、さまざまな視点で高齢者を捉え、通所施設見学後には多くのポジティブな高齢者観をもったことがわかった。そのため、老年看護学教育に通所施設見学を組み込むことは、ポジティブな高齢者観を育むには有効であると考えられる。また、各対象それぞれの視点を共有するためにも、高齢者疑似体験や通所施設見学を行った後に、ディスカッションを導入することが有効であると考えられる。以上のことから、看護学生は老年看護学の基本的な知識を修得した後に、高齢者疑似体験や通所施設見学を体験すると、高齢者観が広がり対象理解を深めるための多くの視点が養われることが示唆された。

**キーワード** 高齢者観 看護学生 老年看護学教育

## I. 研究目的

中島<sup>1)</sup>は、高齢者のポジティブな面に着目することについて“高齢者の健康や疾病・障害の状態や程度がどうであれ、高齢者自身が持っているパワー（生命力、英知、生きる技法など）を洞察し、自立への志向性を信頼し、支援することにおいて発想を転換する必要性を強調されるようになった”と述べている。しかし、マスコミなどで取り上げられている高齢者の情報は、詐欺の被害者や孤独死などとネガティブな内容が多い。また、高度経済成長期を境にした核家族化の進行により<sup>2)</sup>若者は、高齢者との生活経験が少なく、高齢者に対するイメージを持ちにくい状況にある。これらのことからマスコミに取り上げられている高齢者像に影響

され、若者は高齢者に対してマイナスイメージを持ちやすいと言われている<sup>3)</sup>。つまり老年看護学の教育者は、学生の老年看護学に関する知識の修得を助けるのと同様に、学生が持つと思われる偏った高齢者観を、現実の豊かなものに広げられるように支援することが重要である。

本研究の対象が所属する看護学科においても、老年看護学講義の開始前に行なったアンケートによると、祖父母との同居経験のあるものが全体の29.9%と少ない傾向にあり、高齢者に対するイメージが希薄であろうことが推測された。そのため学生には、老化による心身の変化と付き合いながら老年期を生きる高齢者の理解を深めるために、講義だけではなく健康老人の話や介護を聞くこと、デイケア・デイサービスなどの通所施設見学（以下通所施設見学）、高齢者疑似体験を取り入

\*旭川医科大学 医学部看護学科

れる工夫を行っている。

竹田ら<sup>4)</sup>は、高齢者疑似体験による高齢者理解の可能性と限界に関する研究を行い、高齢者疑似体験、ふれあい援助実習、高齢者の理解（講義）で、高齢者施設での臨地実習及び講義の後に体験学習を実施したⅠ群と、実習及び講義前に実施したⅡ群との比較を行った。その結果Ⅰ群は、「古い」の追体験を課題として臨み既習の知識と今回の体験を総合して理解し、Ⅱ群は「古い」を疑似体験によって身体的な機能低下とそれに伴う心理を実感することで、漠然としていた高齢者像がイメージ化できるようになっていたことを報告していた。

筆者ら<sup>5)</sup>も昨年、本研究と同対象における高齢者疑似体験後の高齢者観に関する研究を行った結果、実施時期の検討だけではなく、導入にどのようなことを行っていたかが高齢者観に影響することが示唆され、高齢者観の育成には高齢者疑似体験だけではなく、教育カリキュラム全体を検討する必要があると考えた。しかし、体験学習や施設見学の高齢者観に焦点を当てた研究は行われていても、両者を切り口として教育カリキュラムを検討する高齢者観に関する研究は、過去5年見当たらなかった。つまり、これらの研究を行うことで看護学生の高齢者観を育成するための、基礎資

料を提供できるのではないかと考えた。

以上のことから学生が持つと思われる偏った高齢者観を、現実の豊かなものにし、高齢者理解を深めるための教育カリキュラムを構築するべく、本研究では「通所施設見学」後の高齢者観を明らかにし、老年看護学教育のプログラムの検討を行う基礎資料を得ることを目的とする。その際、昨年発表した筆者ら<sup>5)</sup>の高齢者疑似体験に関する論文を参考資料として用いる。

## Ⅱ. 研究方法

### 1. 研究対象

4年制大学看護学科の3年生で老年看護学と実践看護技術学（老年）を受講した62名のうち、承諾が得られた学生が記載した、通所施設見学後の高齢者観のレポートである。

### 2. 老年看護学に関するカリキュラム進度とプログラムの内容

#### 1) 老年看護学に関するカリキュラム

老年看護学に関するカリキュラムの進度については、表1に示す。これらは、全て第3学年で行われる。

#### 2) 「老年看護学」の学習内容

「老年看護学」の学習内容は、表2に示した通りで

表1 老年看護学に関するカリキュラム進度（3学年）

科目 / 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
老年看護学(30時間)								
実践看護技術学・老年(18時間)								
老年看護学実習(90時間)								

高岡哲子・留畑寿美江・服部ユカリ：看護学生の「高齢者疑似体験」後の高齢者観と教育プログラムの検討、旭川医科大学研究フォーラム 6(1)、33-42、2005 表1の引用

表2 老年看護学学習内容

コマ数	施行日	講義内容	備考
1		老年看護学理念	老年看護の特徴と基本姿勢
2~3	4月18日	老化とは	身体的・生理的・心理的・発達段階・社会的側面から老化を理解する
4~5	4月18日・25日	高齢社会と、高齢者に対するサービス	高齢者を取り巻く状況
6	4月25日	高齢者の施設看護の役割	介護保険制度の理解
7	5月9日	高齢者の生活と人生	シルバー人材派遣センターに登録されている方のお話を聞く
8~14	5月9日	高齢者に特有な疾患と看護	各疾患の理解とその看護
15	6月10日	脳、神経疾患の補助診断	
16~22 23~24	6月16日 6月27日	老年看護学の基本技術 家族への援助	各基本技術とその看護 家族が抱える問題など
25	7月4日	高齢者のアセスメントとケアプラン	MDS, RAPs 活用
26~27	7月4日・11日	看護過程の展開	グループによる、ペーパーペーシェント
28~29	7月11日	高齢者の病院における看護の実際	高齢者専門病院の看護
30	8月22日	まとめ	老年看護の展望と全体の補足

高岡哲子・留畑寿美江・服部ユカリ：看護学生の「高齢者疑似体験」後の高齢者観と教育プログラムの検討、旭川医科大学研究フォーラム 6(1)、33-42、2005 表2に修正を加えた。

ある。履修時期は4月から8月で、教授法は講義と学生のプレゼンテーションによって行われる。高齢者疑似体験や通所施設見学が行われる前に、高齢者を理解するために必要な基本的な知識の修得は終了する。最終的な評価は筆記試験と課題レポートによって行われる。

3) 「実践看護技術学 (老年)」の学習内容

「実践看護技術学 (老年)」の学習内容は、表3に示

した通りである。履修時期は、6月と7月に集中して行われ、高齢者疑似体験、通所施設見学、高齢者の事例に基づいた技術演習を行っている。技術演習は、紙上事例を元に学生が援助計画を立案し、模擬患者に対して援助を行う。最終的な評価は、実技試験と課題レポートによって行われる。

高齢者疑似体験の実施要項は、表4に示した通りで

表3 実践看護技術学 (老年) 学習内容

コマ数	施行日	講義内容	備考
1	6月17日	ガイダンス／高齢者 疑似体験	高齢者疑似体験と施設見学のガイダンスも含む。学習内容は、山田花さん(仮名)に対する、行動計画を立案し実施する。
2~3	6月24日・6月28日	施設見学 食事・口腔内の清潔の援助	見学施設は、2施設で2回に分かれて見学をする。見学していない学生は、学内で演習を行う。
4	7月1日	排泄・移動の援助	学生が主体的に行う。
5	7月8日	清潔・更衣の援助	学生が主体的に行う。
6	7月19日	試験	評価表に基づいて評価を行う。

表4 高齢者疑似体験実施要項

<b>平成17年度 高齢者疑似体験実施要項</b>	
1. 目的	装具をつけることにより、加齢による身体機能の変化を疑似的に体験し、高齢者の身体、心理的側面の理解を深め、より良い高齢者看護に役立てる。
2. 方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 疑似体験グループ表にあわせてグループに分かれる。</li> <li>• 全体でビデオを見て、装着法などを確認する。</li> <li>• グループ内で2人1組になり交互に高齢者役と介助者役を体験する。</li> <li>• 高齢者役は介助者役の介助を受けながら下記の課題を実施する。</li> <li>• 高齢者役1人に与えられた時間は20分である。</li> <li>• 一人に与えられた時間内に装具装着、体験、着脱を行う。</li> <li>• 全員が終了したら、元通りに物品を戻し、周囲の環境を整える。</li> </ul>
3. 課題	<p>1) 実施課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 階段を上り下りする。</li> <li>② 和式の便器にしゃがむ。</li> <li>③ 洋式トイレに腰掛けてみる。</li> <li>④ 身体障害者用トイレに腰掛けてみる。</li> <li>⑤ 自動販売機で好みの飲み物を買ひ、学生ラウンジで飲む。 (実習室には飲み物を持ち込まない。)</li> <li>⑥ お金かテレホンカードを使い、公衆電話を利用して117番で時刻を聞いてメモをとる。</li> <li>⑦ エレベーターを使う。</li> <li>⑧ 電話帳で市役所の電話番号を探しメモする。</li> <li>⑨ 2階の学生用掲示板を見て、「疑似体験のお知らせ」をメモする。</li> </ul> <p>2) レポート課題</p> <p>課題1：以下の点について、どのように感じ、考察したのかを述べなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 身体的側面</li> <li>② 心理的側面</li> <li>③ 全体を通しての学び</li> </ul> <p>課題2：「高齢者疑似体験」学習を通して感じた、高齢者へのイメージを記載する。</p>
4. 注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 介助者は、事故のないように慎重に介助する。(特に階段昇降)</li> <li>• 大声を立てず、静かに行動する。特に、教室・教官の研究室には近づかない。</li> <li>• やむを得ず近くに行く場合は、物音を立てない。</li> <li>• 疑似体験セットは丁寧に扱い、破損しないようにする。万が一破損した場合は速やかに申し出る。</li> </ul>

高岡哲子・留畑寿美江・服部ユカリ：看護学生の「高齢者疑似体験」後の高齢者観と教育プログラムの検討、旭川医科大学研究フォーラム 6(1)、33-42、2005 表3に修正を加えた。



ある。高齢者疑似体験は、装具をつけることにより、加齢による身体機能の変化を疑似的に体験し、高齢者の身体、心理的側面の理解を深め、より良い高齢者看護に役立てることを目的として、3人から4人が1グループとなり装着法などを確認したのち、グループ内で2人1組になり、交互に高齢者役と介助者役を体験する。高齢者役は介助者役の介助を受けながら与えられた課題を実施する。

通所施設見学の実施要項は、表5に示した通りである。通所施設見学は、学生一人につき1施設を午後の半日を活用して見学する。通所施設見学は、高齢者と直接接することで高齢者観を深めることを目的として行われる。デイケアやデイサービスの通所施設を選択した理由は、老化や疾患により日常生活に不自由なことがありながらも在宅で生き生きと生活している高齢者に接することにより、「健康＝疾患がない」と言う2分極的な考え方ではなく<sup>6)</sup>、広い視野で高齢者を捉えることが出来るのではないかと考えたからである。

#### 4) 老年看護学実習の学習内容

老年看護学実習は、10月と11月に、1学生に対して3週間行われる。内容は、介護老人保健施設（1週間）と高齢者中心の病棟（2週間）である。介護老人保健施設では、1名の入所者を受け持ち全体像の把握を行う。高齢者中心の病棟実習では、1名の患者を受け持ち看護展開する。最終評価は、出席日数と学習目標の到達度によって行う。

#### 3. データ収集場所と期間

データ収集場所は北海道内にあるH大学医学部看護学科で、データ収集期間は2005年6月である。

#### 4. データの収集方法

学生の高齢者観が現実的で豊かになるということは、高齢者を捉える視点も豊かになるということである。そのため、老年看護学実習前までに幅広い高齢者観の育成を図りたい。そこで「通所施設見学」に着目し、

表5 施設見学の実施要項

<b>平成17年度 施設見学実施要項</b>	
1. 目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者と直接接することで、高齢者観を深める。</li> </ul>
2. 学習方法	<p>《事前準備》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設見学のオリエンテーションを受ける。</li> <li>・通所ケア施設に関する事前学習を行う。：施設の概要、就業している職種と人員、利用者の特徴など</li> </ul> <p>《実 施》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見学時間内に行われている、ケア、レクリエーションなどの活動を見学する。</li> <li>・高齢者と共に、レクリエーションなどに参加する。</li> <li>・高齢者の方たち直接お話をさせていただく。</li> </ul> <p>《実 施 後》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見学したことについて、グループ間でディスカッションを行う。</li> <li>・施設見学後の高齢者観についてレポートを記載する。</li> <li>・施設見学での学びについてレポートを記載する。</li> </ul>
3. 評 価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学生評価：レポートの内容より行う。</li> <li>2) 学習評価：見学施設からのご意見、教員の意見、学生の反応、学生のレポートにより行う。</li> </ol>
4. 学生の見学時の服装と注意点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 見学時はユニホームとナースシューズを着用する。</li> <li>2) ネームは必ずつける。(その際、字を大きくするなど、見やすいように工夫する。)</li> <li>3) 貴重品は各自が管理するので、邪魔にならないように工夫する。</li> <li>4) 施設内では職員の指示に従う。</li> <li>5) 施設内では、すれちがった方すべてに挨拶をする。</li> <li>6) 利用者に依頼されたことは必ず、職員に伝える。</li> <li>7) 自分だけの判断で行動を起こさない。</li> </ol>

その後の高齢者観に関するレポートを素材として扱うことにする。

- 1) 通所施設見学後に、どのような高齢者観を持ったのかをレポートする課題を課す。
- 2) レポートの提出期限は実施後1週間以内とする。
- 3) 分析に用いる学生の基本属性は、性別、年齢、高齢者との生活体験などである。

## 5. データの分析方法

本研究は、学生のレポートから高齢者観を明らかにすることを目的としている。つまり意味や思いを読み取るのではなく、そのレポートに何が書かれているかと言うことが重要となる。そこで「表明されたコミュニケーション内容」を研究対象としている Berelson, B.<sup>7)</sup> の内容分析の方法に基づいて行うことが妥当であると判断したため採用する。

その段階は以下の通りである。分析手順の参考例は表6に示す。

- ①対象の通所施設見学後のレポートの文脈を整理し素材とする。その素材には、便宜上連続番号とID番号をつける。
- ②素材から、「高齢者観」に関する文脈を抽出しデータとする。
- ③抽出されたデータを、要約し1文脈ごとに1記録単位とする。要約するのは類似性を明確にするためである。
- ④意味内容の類似性に従い分類し、[サブカテゴリー]、【カテゴリー】をそれぞれ抽出する。
- ⑤分類は老年看護学担当教員2名で討議して行う。そして、一致数と不一致数をカウントする。
- ⑥内容の一致率は、スコットの計算式<sup>8)</sup>に基づいて算出し検討する。
- ⑦抽出された高齢者観を検討する。

## 6. 倫理的配慮

本研究は、学習内容の一部を使用することと、事前に承諾書を取らないことで学生に与える心理的、身体的侵襲は極めて低いと考える。しかし研究者の所属機関でデータ収集を行うため、研究協力を拒否することで、学習上何らかの不利益をこうむるのではないかと懸念することも予測できる。そのため、この研究への参加を拒否しても評価にはまったく関係がないこと、

また研究への参加を中断することにおいて不利益をこうむらないこと、さらにデータはプライバシー保護のためIDをつけて匿名で処理し、厳重に保管・管理することを老年看護学と実践看護技術学(老年)のプログラムが全て終了した後に、集団に対して説明し個々に書面にて承諾を得る。

## II. 結 果

老年看護学の講義、及び実践看護技術学(老年)に関するプログラムは予定通りに実施された。

### 1. 対象の特性

本研究の対象は、4年制大学看護学科の3年生で老年看護学と実践看護技術学(老年)を受講し「高齢者疑似体験」に参加した学生62名のうち、承諾が得られた61名であった。年齢は全員20代で、性別は女性が56名と男性が5名であった。

### 2. 通所施設見学後の高齢者観

対象の通所施設見学後の高齢者観は表7に示す。

通所施設見学後の高齢者観に対するレポートから得られた素材は391文脈であった。そのうち、高齢者観が記載されていた262記録単位をデータとして扱った。スコットの計算式により算出された一致率は75%で、信頼性は確保されていた。

対象の高齢者観の内容分析の結果、18の【カテゴリー】と、73の[サブカテゴリー]が抽出された。以下カテゴリーを【 】で、サブカテゴリーを[ ]で示し、サブカテゴリー内に記録単位数を( )で示す。

【明るい】は、[笑っている(5)] [充実した毎日を送りたい(1)] [楽しんでいる(24)] の3つのサブカテゴリーによって構成されていた。

【安心感を与える】は、[あたたかい(6)] [気さくである(2)] の2つのサブカテゴリーによって構成されていた。

【洞察力がある】は、[医療者をしっかり見ている(1)] [自分を知っている(2)] の2つのサブカテゴリーによって構成されていた。

【表現力がある】は、[表情が豊かである(4)] [感情が豊かである(3)] の2つのサブカテゴリーによって構成されていた。

【自律している】は、[おしゃれに気を遣っている(1)]

表 6 通所施設見学レポートの分析手順の参考例

No①	ID①	素 材 ①	文脈の整理 ①	抽出・有無②	一致・不一致⑤	要 約 ③	サブカテゴリ④	カテゴリ④
175	ID27.7	高齢者の方は身体的な機能低下は見られませんが、若い人と同様、一人の人間として人生を生きると考えています。高齢者の存在をそういう一人の人間としてとらえ、医療者は援助を進めていくべきであると感じました。	高齢者は若い人と同様、一人の人間として人生を生きると過ごし、充実した毎日を送りたいと考えている。	抽出	一致	高齢者は一人の人間として充実した毎日を送りたい。	充実した毎日を送りたい	明るい
212	ID33.9	譲れない考えを持っている事や	高齢者は譲れない考えを持っている。	抽出	一致	高齢者は譲れない考えがある。	強い意志がある	自律している
83	ID14.2	初めに自分の高齢者観と異なる部分に気がついたのは、多くの方が車椅子や杖などの補助具を使用していたということだ。そのことは実際に観察していても分かったし、お話を伺った方も「この連中はほとんどまともに歩けないんだよ。杖なしで歩けるのなんて俺ぐらいのものだ。」とおっしゃっていた。しかしその方も数年前に脳梗塞で倒れ、リハビリのおかげで補助具なしでの歩行が可能になったとのことだった。	高齢者は、多くの方が車椅子や杖などの補助具を使用している。	抽出	不一致	高齢者は、車椅子や杖などを使用している。	補助具を使用している	介助が必要である
26	ID3.9	今まで、若い人達が高齢者に元気をあげるのだと思っていたが、今回施設見学を行って、実はその逆で、高齢者が若い人達に元気をあげているのだと思った。	高齢者は、若い人達に元気をあげていると思った。	抽出	一致	高齢者は、元気を与えている。	元気を与えることができる	活力がある

「健康に気を遣っている(2)」[その人らしく生きている(3)] [強い意志がある(4)] [自己決定ができる(2)] [自分のことは自分です(6)] の6つのサブカテゴリーによって構成されていた。

【自負心がある】は、[誇りを持っている(4)] [戦争や国家に重きを置いている(1)] [信念がある(1)] の3つのサブカテゴリーによって構成されていた。[誇りを持っている(4)] は「とても明るく、にこやかで、自分の生きていた人生に誇りを持っているように感じた。」から、[戦争や国家に重きを置いている(1)] は、「…話すうちに戦争の話になり、小泉首相の靖国神社参拝のことや、天皇皇后両陛下のサイパン視察を例に挙げ、自分の考えを私に説く感じで話された。高齢者にとって、戦争や国家、天皇というのは私たちが思う以上に重みのある言葉なのだろうと感じた。」から、[信念がある(1)] は、「信念がある。今までの人生の中で築き上げられてきたものがあると感じました。また、私たちに、どんな看護師になって欲しいかを伝えてくださいました。どんなにいい機械や薬がでたとしても、人間そればかりに頼ってはいけないこと、直接のふれあいをなくさないことを約束しました。」から抽出された。

【介助が必要である】は、[サポートを受けて生活する(1)] [補助具を使用している(2)] の2つのサブカテゴリーによって構成されていた。

【活力がある】は、[元気を与えることができる(3)] [生き生きしている(37)] [意欲的である(2)] [活動的である(12)] [健康レベルが高い(1)] [記憶力が良い(1)] [楽観的である(1)] [若々しい(9)] [集中力がある(1)] [やれば出来る(1)] の10のサブカテゴリーによって構成されていた。[やれば出来る(1)] は、「…施設に掲示してあった作品はどれも完成度が高く、疑似体験したときには習字や工作などはできないと思ったけれど、やればできるんだと思った。」から抽出された。

【気遣いが出来る】は、[遠慮している(2)] [人を楽しませる(2)] [言葉かけが出来る(2)] [お互いを支えあう(1)] [世話好き(1)] [質問に答えられないことを気にする(1)] [周囲のことを考える(1)] [配慮や判断力がある(1)] [やさしい(6)] の9つのサブカテゴリーによって構成されていた。[お互いを支えあう(1)] は、「私自身も沢山の人にさまざまなサポートを受け、今

現在生きている。『助け合い』『お互い様』などの言葉があるが、年齢に関係なく、高齢者だからといって特別なのではなく、同じように支えあっていくのだと思った。」から抽出された。

【個体差がある】は、[自分なりの価値観がある(2)] [自分のペースがある(1)] [自立度に幅がある(4)] [ジェンダー要素は変わらない(1)] [個人差が大きい(4)] [個性がある(15)] [性格や個性は変わらない(4)] の7つのサブカテゴリーによって構成されていた。

[ジェンダー要素は変わらない(1)] は、「気に入った相手(異性)にちょっかいをだすということは、どの世代でもあり得ることだと納得しました。…男の人は男の人、女の方は女の人というジェンダー的な要素は決してなくなると実感しました。」から抽出された。

【協調性がある】は、[家族の一員である(2)] [チームプレーができる(1)] の2つのサブカテゴリーによって構成されていた。

【老化による変化がある】は、[短時間で忘れてしまう(2)] [肌がくすみがちである(1)] [肉体的、精神的に弱い(1)] [新しいことに挑戦しにくい(1)] [行動がゆっくりである(2)] の5つのサブカテゴリーによって構成されていた。

【寂しい】は、[話し相手が少ない(3)] [愚痴っぽくなる(1)] [人との接触を求めている(2)] の3つのサブカテゴリーによって構成されていた。

【積極的である】は、[前向きである(10)] [自ら行動する(2)] [作業に励む(6)] の3つのサブカテゴリーによって構成されていた。

【尊敬できる】は、[人生の先輩である(1)] [心は熟した状態である(1)] [経験がある(2)] [知識がある(7)] [器が広い(1)] の5つのサブカテゴリーによって構成されていた。[心は熟した状態である(1)] は、「もう一つ変化していないものは、心は熟した状態であることです。周りに対する配慮や行動、発言を聞いていても年長者と感じられました。人に迷惑を掛けてはいけない、年長者には尊敬の眼差しをというのを特に感じました。」から抽出された。

【素直である】は、[自分の欲求を表現する(1)] [個性を隠さない(1)] の2つのサブカテゴリーによって構成されていた。

【社会的である】は、[話好きである(6)] [コミュニ



ケーション能力が高い(1)] の2つのサブカテゴリーによって構成されていた。

【適応力がある】は、[変化を楽しむことができる(1)] [障がいとうまく付き合う(11)] [若者に対して肯定的である(1)] [充実した生活を送っている(1)] [状態をそのまま受け入れる(2)] の5つのサブカテゴリーによって構成されていた。[若者に対して肯定的である(1)] は、「利用者と話した時、積極的に会話をしてくれ私達が来た事を好意に思ってくれているのではないかと感じた。マスコミでは、『最近の若者は…』というように年配の方達は否定的に捉えている報道をされているが、それほどではなくむしろ逆であるのではないかと思った。」から抽出された。

## IV. 考 察

### 1. 通所施設見学後の高齢者観

看護学生に対する高齢者観の育成は、単に対象を理解するというだけでなく、適切な援助につなげられることが重要であり、高齢者観は対象を理解するための視点となりうるため、多様であることが望ましい。

#### 1) ポジティブな高齢者観

筆者ら<sup>5)</sup>の研究において、高齢者疑似体験で得られた高齢者観は【不自由である】や【身体能力が低下している】など身体機能の低下が特徴的に抽出されていたが、通所施設見学後は「何らかの疾病や障がいがあったとしても生き生きと生活されている高齢者と直接接することで、さらにポジティブな高齢者観を強めることが予測される<sup>5)</sup>」とした通り、【明るい】【安心感を与える】【自律している】【活力がある】など、ポジティブな高齢者観が多く見られた。これは、生き生きと地域で生活している高齢者の姿や、飾られていた作品から、【自律している】や【積極的である】に含まれた「自ら行動する」や「作業に励む」などのカテゴリーが抽出されているように、「疾病や障がいがあること＝不健康」または「身体能力の低下＝QOLの低下」にはならないことを実感したためではないかと考える。また、【自負心がある】に含まれた「戦争や国家に重きを置いている」や【信念がある】が抽出された記述に見られるように、直接会話をすることで高齢者の知恵に触れ、新たな視点が持てたこともこの様な結果に関連しているのではないかと考える。

### 2) 多様な高齢者観

高齢者疑似体験後の高齢者観では、13の【カテゴリー】と、54の【サブカテゴリー】が抽出された<sup>5)</sup>。これと比較して、通所施設見学後の高齢者観は18の【カテゴリー】と73の【サブカテゴリー】と多くの高齢者観が抽出されていた。本研究の対象は、高齢者疑似体験を実施したことで【不自由である】や【ネガティブな感情を持ちやすい】【身体能力が低下している】などの否定的な高齢者観を持ち合わせていた<sup>5)</sup>。そのため通所施設にいた高齢者が生き生きとされていることに目が向き、ポジティブな側面に着目できたのではないかと考える。また、講義において老年看護学の基本的な知識を修得した後であり、高齢者を観察する多くの視点が養われていたことも影響したものと考えられる。

### 3) 個体差がある高齢者観

先の研究<sup>5)</sup>において対象が【個体差がある】と言う高齢者観を持っていたが、通所施設見学においても、同様に【個体差がある】が抽出された。また、高齢者疑似体験後においても通所施設見学後の高齢者観でも記録単位数が「1」と言うサブカテゴリーが多く見られていた。このことから、対象がそれぞれの視点で高齢者を見ていることがわかる。この様に、さまざまな視点を持ちながら対象は、【個体差がある】ことに着目できていたことになる。

## 2. 教育カリキュラムへの提言

### 1) ディスカッションの導入

先に述べたように、高齢者疑似体験後においても通所施設見学後の高齢者観においても記録単位数が「1」と言う、サブカテゴリーが多く見られた。これは、対象それぞれが高齢者を観察する個々の視点を持ち合わせていたことになる。一人の視点を他の対象と共有することにより、自分だけの視点ではなく他の視点に気がつき、さらに豊かな高齢者観を持つことが出来る。そのためにもディスカッションの導入が有効であると考える。また、このディスカッションは先の論文<sup>5)</sup>でも述べたように、体験を強化する効果も期待できる<sup>9)</sup>。そのため、ディスカッションの時間を設けることで学びの強化と高齢者観の広がりが期待できると考える。

### 2) 実施時期の検討

先の論文<sup>5)</sup>の結論で「本研究の対象は高齢者疑似体験後の高齢者観に、高齢者の【不自由である】状態を

表7 通所施設見学後の高齢者観

カテゴリー	サブカテゴリー	記録単位数
明るい	笑っている	5
	充実した毎を送りたい	1
	楽しんでいる	24
安心感を与える	あたたかい	6
	気さくである	2
洞察力がある	医療者をしっかり見ている	1
	自分を知っている	2
表現力がある	表情が豊かである	4
	感情が豊かである	3
自律している	おしゃれに気を使っている	1
	健康に気を遣っている	2
	その人らしく生きている	3
	強い意志がある	4
	自己決定ができる	2
	自分のことは自分でする	6
自負心がある	誇りを持っている	4
	戦争や国家に重きを置いている	1
	信念がある	1
介助が必要である	サポートを受けて生活する	1
	補助具を使用している	2
活力がある	元気を与えることができる	3
	生き生きしている	37
	意欲的である	2
	活動的である	12
	健康レベルが高い	1
	記憶力が良い	1
	楽観的である	1
	若々しい	9
	集中力がある	1
	やれば出来る	1
気遣いができる	遠慮している	2
	人を楽しませる	2
	言葉かけが出来る	2
	お互いを支えあう	1
	世話好き	1
	質問に答えられないことを気にする	1
	周囲のことを考える	1
	配慮や判断力がある	1
	やさしい	6
個性差がある	自分なりの価値観がある	2
	自分のペースがある	1
	自立度に幅がある	4
	ジェンダー要素は変わらない	1
	個人差が大きい	4
	個性がある	15
	性格や個性は変わらない	4
協調性がある	家族の一員である	2
	チームプレーができる	1
老化による変化がある	短時間で忘れてしまう	2
	肌がくすみがちである	1
	肉体的、精神的に弱い	1
	新しいことに挑戦しにくい	1
	行動がゆっくりである	2
寂しい	話し相手が少ない	3
	愚痴っぽくなる	1
	人との接触を求めている	2
積極的である	前向きである	10
	自ら行動する	2
	作業に励む	6
尊敬できる	人生の先輩である	1
	心は熟した状態である	1
	経験がある	2
	知識がある	7
	器が広い	1
素直である	自分の欲求を表現する	1
	個性を隠さない	1
社交的である	話好きである	6
	コミュニケーション能力が高い	1
適応力がある	変化を楽しむことが出来る	1
	障がいとうまく付き合う	11
	若者に対して肯定的である	1
	充実した生活を送っている	1
	状態をそのまま受け入れる	2



理解しながらも個体差に着目し、ネガティブな高齢者観とポジティブな高齢者観をバランスよく持ち合わせていた。」と報告したが、通所施設見学後の高齢者観ではポジティブな高齢者観が特徴的に抽出されていた。しかし、老年看護学実習では生活障がいがある患者を受け持つことになるためネガティブな高齢者観を抱きがちであることが予測される。そのため事前にポジティブな高齢者に対する視点を多く持ち合わせていたほうが、適切な高齢者理解につながると考える。

また、高齢者理解に関する知識を修得した後に、高齢者疑似体験や通所施設見学を体験することで、身体能力の低下だけではなく、また、ポジティブな側面だけでもない【個体差がある】ことに着目できていた。このことから、講義による高齢者を理解するための知識を修得し、その後高齢者疑似体験により身体能力の低下を実感した上で、疾患や障がいがありながらも通所施設を利用しながら地域で生活されている高齢者と接することで、対象理解を深めるための多くの視点が養われるのではないかと考える。

## V. 結 論

本研究の結果から、通所施設見学後には「ポジティブな高齢者観」と「多様な高齢者観」「個体差がある高齢者観」が特徴的に抽出されていた。これらのことをふまえて以下のことが明らかとなった。

- 各対象はさまざまな視点で高齢者を見ているため、その視点を共有するためにも、ディスカッションを導入する必要がある。
- ポジティブな高齢者観を育むために、デイケアやデイサービスの通所施設を見学する有効性が示唆された。
- 看護学生は老年看護学の基本的な知識を修得した後

に、高齢者疑似体験や、通所施設見学を体験すると、高齢者観が広がり対象理解を深めるための多くの視点が養われる。

本研究は、第32回日本看護研究学会学術集会で発表したものに、加筆修正を加えたものである。

## 参考文献

- 1) 中島紀恵子(編):系統看護学講座 専門20 老年看護学, 医学書院, 2004
- 2) 厚生統計協会:国民衛生の動向, 50(9), 2003
- 3) 清水初子・水戸美津子・流石ゆり子:老年看護学における教育方法としての体験学習—「高齢者疑似体験」学習に関する文献分析から—, 山梨県立看護大学紀要, 2(1), 73-85, 2000
- 4) 竹田恵子・兼光洋子・太湯好子:高齢者疑似体験による高齢者理解の可能性と限界—実施時期による学習効果の違い—, 川崎医療福祉学会誌, 11(1), 65-73, 2001
- 5) 高岡哲子・留畑寿美江・服部ユカリ:看護学生の「高齢者疑似体験」後の高齢者観と教育プログラムの検討, 旭川医科大学研究フォーラム 6(1), 33-42, 2005
- 6) アーロン・アントノフスキー(山崎喜比古・吉井清子訳):健康の謎を解く ストレス対処と健康保持のメカニズム, 有信堂, 2001
- 7) Berelson, B. (稲葉三千男他訳):内容分析, みすず書房, 1957
- 8) 舟島なをみ:質的研究への挑戦, 医学書院, 1999
- 9) 成田伸・石井トク:特集 体験学習[排泄]への疑問 授業研究「体験学習」の文献的考察, 看護教育34(2), 91-100, 1993

参考資料1 高齢者疑似体験後の高齢者観

カテゴリー	サブカテゴリー	記録単位数
不自由である	不便な生活を送っている	25
	身体が思い通りにならない	12
	手助けが必要である	3
	判断力が低下する	1
ネガティブな感情を持ちやすい	不安がある	4
	孤独感がある	6
	身体変化に対する愚痴を言う	1
	介助を受けると悔しい気持ちになる	1
	行動を起こすことへの恐怖心がある	2
身体能力が低下している	行動では若者にかなわない	1
	各感覚器機能が低下する	2
	行動範囲が狭い	4
	身体的負担が大きい	1
	動作が緩慢である	4
	身体運動の制限が大きい	1
	外見が元気そうでも身体は低下している	1
	情報を入手しづらい	1
	身体的な問題を抱えている	1
	疲労しやすい	9
	喪失感を持つ	1
	障がいがある	1
ストレスが大きい	元気そうでも多くのストレスを抱えている	1
	自由が利かない	1
	周囲から非難や中傷を受ける	1
	心理的苦痛がある	2
	生活をする上でのストレスがある	1
焦燥感がある	気持ちに余裕がない	1
	動作が緩慢でいらいらしている	2
一生懸命である	自分なりに一生懸命である	2
	がんばって生活をしている	2
自立している	それほど介助が必要ではない	1
	生活の組み立てが出来る	3
個体差がある	一人ひとりさまざまである	8
	気の持ち方で変化する	1
	加齢に伴う変化がある	2
生活能力がある	最大限の能力を発揮している	1
	潜在的な能力を持っている	1
	自立心が強い	1
	加齢では感情の変化はない	1
	力強く生きる	3
積極的である	元気に生活している	3
	身体能力の低下があっても活動しようとする	1
尊敬すべき人である	楽しみ方を知っている	1
	我慢強い	1
	尊敬できる	1
	人生経験がある	1
	気遣いができる	1
	豊かな人間性	3
	精神的に強い	1
謝意心がある	親切をありがたく思う	1
	感謝の気持ちを持っている	1
適応能力がある	身体変化と上手に付き合う	7
	自分にあった趣味を楽しむ	1
	環境に適応する	1

高岡哲子・留畑寿美江・服部ユカリ：看護学生の「高齢者疑似体験」後の高齢者観と教育プログラムの検討、旭川医科大学研究フォーラム 6(1)、33-42、2005 表5の引用

# Fostering the nursing student's outlook toward the elderly concerning gerontological nursing – Proposal to education program –

TAKAOKA Tetsuko\*, and HATTORI Yukari\*

---

## Summary

The purpose of this study is to evaluate changes in nursing students' attitudes toward the elderly after "visitation of a day service facility," and the hope is to provide research that may serve to aide in the enhancement of gerontological nursing programs.

The subjects were 61 4-year nursing college juniors who participated in "visitation of a day service facility" and agreed to take part in this analysis. Data was analyzed based on the content analysis method of Berelson B. (1957), and 18 categories and 73 subcategories were extracted.

It was revealed that after simulating the experience of being elderly and visiting a day service facility, the subjects saw the elderly from various new perspectives and had more positive attitudes toward them.

Thus, it would be worthwhile to incorporate visitation of day service facilities into gerontological nursing education in order to foster a more positive attitude toward the elderly. It might also be useful to hold discussions afterwards so that students might be able to share their thoughts on these experiences. Through taking part in such activities after the acquisition of a basic knowledge in gerontological nursing, we believe that students' appreciation and understanding of the elderly could be broadened.

**Key words** outlook toward the elderly, nursing students, gerontological nursing education

---

\*Asahikawa Medical College, Department of Nursing